

池田善英（いけだよしひで）

准教授

専門分野／社会心理学

立教大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程後期課程満期退学。文学修士（心理学）。立教大学文学部助手、東京成徳短期大学ビジネス心理科助教授を経て、平成 22 年現職。ほかに多数の大学で非常勤講師。

著書：「ビジネス心理ハンドブック」（中央経済社）（分担執筆）



ビデオ通話と高齢者

情報・コミュニケーションに関わる機器やサービスの進歩は目覚ましい。半世紀前には必ずしも全ての家庭に、電話機があったわけではなかった。今では固定電話に加えて、個人がスマートフォン、タブレット、コンピュータなどを何台も持ち、時と場合によって使い分けている。その上、ビデオ通話が普及しつつあることは、画期的であると思う。

コミュニケーションには、言語的なものと非言語的なものがある。電話をするとき、言葉を使って話すことは言語的コミュニケーションである。加えて声の質や高さなど、非言語的コミュニケーションという面もある。ビデオ通話ではさらに細かい表情やしぐさまで伝わるようになり、非言語的コミュニケーションの情報量がとても多くなった。

高齢化が進む中で、ビデオ通話はお年寄りにとってこそ有用なのではないか。離れて暮らす孫と顔を合わせて話せることは、大きな喜びであろう。子が老親の健康状態を窺い知るのにも役立つであろう。この技術を使って、新しいサービスが色々開発されるであろう。実際、家庭に居ながらにして、医師の問診を受けられる仕組みがあるらしい。

残念ながら現時点でお年寄りにとって、ビデオ通話の操作は難しく、機器や通信料は高額であると思われる。携帯電話でお年寄り向けの簡易かつ低価格の機種があるように、ビデオ通話機能を持ち操作が容易で安価なデバイスがあると、便利であろう。また通信量が少ないお年寄りに向けて、金銭的な負担を軽減するプランがあると利用しやすいであろう。